



研究部会報告

●マーケティング・サイエンス●

・第3回

日 時：平成5年6月14日(月) 18:00~20:00

出席者：48人

場 所：筑波大学大塚校舎

テーマと講師：ロジットモデル

(1)「チュートリアル」片平秀貴(東京大学)

マーケティング分野におけるロジットモデルの適用方法と研究動向について論じた。

(2)「多項ロジットモデルによる広告効果の分析」杉田善弘(学習院大学), 水野誠(博報堂)

非集計レベルでの広告の長期効果を多項ロジットモデルによりモデル化する方法とその適用事例を紹介した。

・第4回

日 時：平成5年7月12日(月) 18:00~20:00

出席者：30人

場 所：筑波大学大塚校舎

テーマと講師：POSデータ

(1)「POSデータサービスの現状」守口 剛(流通経済研究所)

国内外におけるPOSデータサービスの普及状況とその内容について紹介した。

(2)「POSデータによる商品カテゴリーの分析」江原淳(専修大学)

POSデータを用いた商品カテゴリー分析の研究動向を紹介した。また、パネルデータを用いて、商品カテゴリー特性を共分散構造分析により分析する方法とその適用事例を示した。

・第5回

日 時：平成5年9月13日(月) 19:00~21:00

出席者：18人

場 所：筑波大学大塚校舎

テーマと講師：ファジィ

(1)「チュートリアル」椎塚久雄(工学院大学)

ファジィ理論の研究動向とマーケティング分野への

適用方法やその可能性について説明した。

(2)「感性評価とファジィ」長沢伸也(亜細亜大学)

人間の感性評価をファジィ構造モデルでモデル化する方法とその適用事例を紹介した。また、一対比較法やAHPなどの官能検査法との比較を示した。

・第6回

日 時：平成5年10月18日(月) 19:00~21:00

出席者：19名

場 所：筑波大学大塚校舎

テーマと講師：ニューラルネットワーク

(1)「チュートリアル」寺野隆雄(筑波大学)

ニューラルネットワークの代表的なモデルの紹介と研究動向について論じた。

(2)「SP効果分析システム(デモンストレーション)」尾崎ツル(筑波大学)

ニューラルネットワークを用いてPOSデータからSP効果を分析する方法を示した。また、実際にSP効果分析システムのデモンストレーションを行なった。

・第7回

日 時：平成5年11月8日(月) 19:00~21:00

出席者：20人

場 所：筑波大学大塚校舎

テーマと講師：カタログ通販

(1)「住商オットーにおける新客獲得について」小野仁(住商オットー(株))

日本のカタログ通販の現状と市場構造、および住商オットー社における新客獲得の方法について紹介した。

(2)「ダイレクトメールにおける広告戦略ーカタログ発送についてー」三道弘明(流通科学大学)

DP法によるカタログ発送を打ち切る時期を決定するモデルを提示し、カタログ発送の最適戦略について論じた。

・第8回

日 時：平成5年12月13日(月) 19:00~21:00

出席者：24人

場 所：筑波大学大塚校舎

テーマと講師：ポジショニングマップ

(1)「マーケティングにおけるポジショニングマップ」朝野熙彦(日本リサーチセンター)

ポジショニングマップの各種手法の紹介とその活用方法、およびポジショニング戦略について論じた。

(2)「テレビ番組のコンセプト開発」阿部淳一(三菱総

合研究所)

因子分析法によるテレビ番組のポジショニングマップの適用事例を紹介した。また、ポジショニングマップからコンジョイント分析を用いて、視聴者満足を上させるような番組コンセプトを導出する方法を示した。

・第9回

日時：2月14日(月) 19:00~21:00

出席者：28人

場所：筑波大学大塚校舎

テーマと講師：マーケティングにおける時系列解析

(1)「チュートリアル」矢島実寛(東京大学)

時系列解析の代表的な手法を紹介し、最近の研究動向について論じた。

(2)「ブランド間の競合構造を利用した需要予測について」栗岩寿一(筑波大学)

多変量自己帰帰モデルをベースとし、ブランド間の競合関係を考慮した新しい需要予測モデルを示した。また、非対称多次元尺度構成法を用いてポジショニングマップを描き、コンセプト段階の新製品の需要予測を行なう方法も紹介した。

・第10回

日時：3月14日(月) 19:00~21:00

出席者：24人

場所：筑波大学大塚校舎

テーマと講師：消費者満足

(1)「チュートリアル」西尾チヅル(筑波大学)

消費者行動研究における消費者満足の測定方法および代表的なモデルについて紹介した。また、消費者満足の最近の研究動向について論じた。

(2)「サービス財の消費者満足構造」阿部節子(筑波大学)

サービス財の満足構造を、サービス財の特性である「不確実性」と消費者の動機づけの程度である「関与」から分析する枠組みを提示した。そのうえで、いくつかのサービス財の満足構造の解明を行なった。

●最適化モデルとその周辺●

・第15回

日時：2月12日(土) 14:30~17:00

出席者：19名

場所：富山大学経済学部会議室

テーマと講師：

(1)「A-距離を用いた配置問題」金 正道(金沢大学

大学院)

A-距離を用いた平面におけるminisum型単一施設配置問題を考えた。その問題に対して各需要点を通るA-方向直線と境界線がA-方向直線であってすべての需要点を含む最小の凸多角形によって最適解の性質を導き、それらをもとにいくつかの引かれた直線の交点のみを交点に対応した方向で目的関数の減少率が最も大きい方向に沿ってたどる反復法をアルゴリズムとして提案した。

(2)「エルゴディックカオスの位相構造」堂谷昌孝(富山大学経済学部)

エルゴディックカオスは、初期値に関して観測可能であるということとそれがもつ統計的性質により、景気変動論において最近注目を浴びてきた。この小論では、エルゴディックカオスを有限エルゴード分解可能な絶対連続、不変測度をもつ写像の反復(解)の、その測度の台(support)の上での不規則な挙動としてとらえ、それが観測可能な(Devaneyの意味での)位相的カオスになるための条件を導出する。この結果を使うと、エルゴード的カオスを発生するパラメータの観測可能性に関するJakobsonの結果のエルゴード的カオスは、観測可能な位相的カオスであることも判明する。

●日本の経営●

・第12回

日時：3月5日(土) 14:00~17:00

出席者：6名

場所：東京都勤労福祉会館(中央区新富)

テーマと講師：「日本の貿易黒字と科学技術」上田亀之助(上田イノベーション研究所)

輸出は輸出国の主権の及ばない外国向けですから、強制力がありません。相手国が買ってくださいとはじめて輸出が可能になります。したがって貿易黒字削減は輸入国が輸入を減らさないかぎり実現困難です。日本はその優れた科学技術により他国で生産困難な商品をたくさん生産していますので、どうしても貿易は黒字になってしまいます。

・第13回

日時：4月9日(土) 14:00~17:00

出席者：14名

場所：東京都勤労福祉会館(中央区新富)

テーマと講師：「食品流通：国民の生命と健康の源」杉

山鉦平（東京都中央卸売市場 板橋市場(株)知鉦）
生鮮食品の流通と新聞記者と警察には、絶対「ちょっと待ってくれ」がありません。すべてが迅速でしかも的確でなければなりません。国民の生命と健康を守るため、いかに迅速に鮮度を保ちながら最終需要家に生鮮食品をお届けするかに奉仕するきわめて責任の大きい流通業です。

●動的計画法●

日 時：3月14日(月) 17:00~19:00
場 所：日科技連
テーマと講師：「ある2人非協力ゲーム問題」神 潤一（千葉大）

資産問題の変形ゲームを考えよう。この問題はKarlinによって最初考えられた。多くの人が一定の長さの時間内で、彼等の資産を売る。ある時刻での資産の価値は確率変数の観測値である。資産を売ることが欲する人の数によって、価格値は種々な値をとるとする。各人に対して決定はこの資産を売るか売らないかのどちらかであるとする。各人に対する目的は資産の期待値を最初にすることである。本研究は二人非協力ゲームの停止問題によって上の問題を定式化し、明白な一致点を議論する。

●CIM環境下における生産計画とスケジューリング●

・第20回
日 時：3月17日(木) 18:30~20:30
出席者：34名
場 所：青山学院大学 総研ビル7階第13会議室
テーマと講師：「遺伝アルゴリズムによる多目的最適化とその圧延工程スケジューリングへの応用」玉置久（京都大学）

遺伝アルゴリズムでは、解の候補が集団として存在する。この性質を多目的最適化に利用すれば、多様なPareto最適解を一挙に多数求められる可能性がある。これを圧延工程のスケジューリングに応用する。目的関数は3次元で、決定変数は、加熱炉へのスラブ振り分けと、圧延順序である。現行の方式よりも一様により結果が得られる場合が多いことを、現場のデータを用いた計算例によって示した。資料：玉置久、他；遺伝アルゴリズムに基づく圧延工程スケジューリング問

題の解法；'93 スケジューリング・シンポジウム講演論文集、日本機械学会No.930-80, pp.39-44, 名古屋11/1993. 講師連絡先：Fax.075(751)1576 E-mail:tamaki@kuee.kyoto-u.ac.jp.

●合意形成・政策●

・第11回
日 時：2月26日(土) 14:00~17:00
出席者：12名
場 所：三菱総研501会議室
テーマと講師：「最近の国内政治にみる合意形成（政変）とパワーバランス」新得建太郎（富士通）

55年体制の崩壊といわれる昨年6月の自民党一党支配の突然の終焉、連立政権の誕生とそれ以降の政治改革法案審議、減税に絡む消費税引上げ論すりかえの国民福祉税発言をめぐる与野党各党の動きをもとに、モデル化の構図を示し、政党内・間のやりとり=引力・斥力を分析してモデル化の基礎となる力の実態を知ることができると結び、参加者の活発な論議が延々と続いた。

・第12回
日 時：3月26日(土) 14:00~17:00
出席者：11名
場 所：三菱総研501会議室
テーマと講師：「思考モデル(性格モデル)と合意形成」柴田祐作（青森大学）

変化する世界に適応した人工物を提供し続けることによる製造業生残りのため、パーソナリティの異なる多数の設計者が、共通目的に向かっていかに協力すべきかというところの、計画概念を含む設計について新しい考え方を促す道具として、メタモデルを提案し、それは従来の諸科学と異次元学問であり、新しい政策科学であると結び、参加者に強い感銘と議論をまき起こした。

会 合 記 録

| | | |
|----------|------------|-----|
| 4月6日(水) | 庶務幹事会 | 4名 |
| 4月8日(金) | 機関誌編集委員会 | 9名 |
| 4月12日(火) | 評議員会 | 8名 |
| 4月12日(火) | 理事会 | 13名 |
| 4月15日(金) | 企業サロン企画委員会 | 7名 |